

A-25* 広島地方の乳児発育状況

広島女学院短大 大谷 信子

昭和 31 年秋期乳児一斉検診票より広島県における漁村地区，農村地区市街地区の地区を選出し生後 6 カ月より 12 カ月に至る健康乳児 442 名の発育状況について，成績を得た。

1) 出生順位別母親の平均年令は第 1 子に於て漁村で最少 (22.5才) で同胞数，同胞中の死亡率共に漁村が最大であった。

2) 栄養法は母乳栄養児は漁村 82.8% 農村 60.5% 市街 1.2% で人工栄養児は，市街に最大で離乳開始も最も早く 5.96 カ月であった。

3) 体重身長胸囲の平均値，角氏体格判定，出生時体重階級別発育型式を算出した結果，何れも漁村，農村，市街の順位に発育良好なる成績を得た。

3 地区の母親の生活様式，経済問題，知識の程度等については，次の機会に報告する。